

市民検討委員会の発表概要(運営・組織・防災・景観)

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
市民参加	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加として企画やレセプション、広報などの作成への参加か、ホールの管理運営組織として関わるか。 可児と北上の方式を参考にしたらどうか。 市民参加、市民参画などというが、市民が協働してやっていかねばならないということを決意した。参加ではなく参画という方向に持っていく。例えばこの検討委員会でメーリングリストを作るなど、そういうところからやっていかねばならない。 		<ul style="list-style-type: none"> 市民参加をどういう観点で捉えるのか、今後議論を行う必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 持論だが、劇場運営の側からみれば、チケットを買って客席に座るのが市民参加だと言っている。何故かという、劇場で公演するときには沢山のお客様に観てほしい、フォローしてほしいという思いがあるから。
運営組織	<ul style="list-style-type: none"> 誰が運営するかについて、財団、NPO、民間の指定管理者など色々あり、市民の中でやる気がありホールの運営に関わりたいたいという方々も沢山いるが、どこまで関わるのかという想定が大事。 管理運営組織になるのであれば、建物全ての管理運営をせねばならない。赤字や器物破損、事故などの責任を市民団体でできるのか。 市民団体が運営組織になるのであれば、そこまで市民が責任を取らねばならないという話をした。 ホールの運営には市民の力が必要。 やりたいことがある市民が市役所職員に相談に来るとい。まずは市民会館大ホール小ホール、けやきがあるので、そういった場所でやりたいことを実現させていくことが先決ではないかと発言した。しかし、そのためには運営組織を作らねばどうにもならない。今できることから始めていきたい。 市民団体が運営するという話が出るとは思わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術監督は予算があればいるに越したことはないが、予算がかかりすぎるのは問題。芸術監督がいるのならば、選出は公募にして欲しい。 運営組織は専門家だけでなく、一般市民も入れるように。 芸術監督、芸術アドバイザー、館長、ゼネラルマネージャーなど、肩書きをつけるときに明確に役割を決め、そういう人も入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営について、ひとことで言えば小田原ならではの運営ができればいい。やはり友の会というのがあり、市民の文化に対する愛着がベースになった、皆で盛り立てて運営していこうという雰囲気は自然に現れる組織が理想的。 そのための市民参加の形として、ボランティアという形では続かないのではないかと。段階的に有償と無償の階層が必要なのではないか。システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。現行で文化サポーターがあるが人員的にきついものがあるので、今の現行のものを補強できるような運営ができないか。 運営に関して全体的に言えるが、専門家は必ず必要。その専門家と一緒に運営していく市民組織を作っていく。そのための友の会を作ったらどうか。例えば会費を集め、ホールの全公演を1割引で観れるなどの特典をつけたり、ホールの広報誌を作る。今の市民会館は情報が分からないので伝わりにくい。 運営について、市民が希望を出すことはできるが、実際に運営組織を形作っていくのは、優先ではないが専門家の考えが基本となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加の範囲について、線引きしようという訳ではないが、組織運営については基本的には専門職が相応しい。 組織の中心は市役所。 運営組織の問題、市民が参加し自分たちが楽しむのだから年間1万くらいの高額の会費をとってもいいのでは。責任の所在は市の中に存在し市の人最終責任を負うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営組織にどう参加するのだが、プロの職業として運営に参加すると市民がアマチュアで参加するという二つの運営団体を考えた場合、責任の持ち方、役割、権限が違う。職業として携わっている人には相応の重さがある。 どう責任をとるか、経営責任がとれるのか、トラブルや事故にどう対応するのか。また、施設管理に関しては消防法を理解していないと参加できない。 事業運営だけという場合もあるが、プロの目線で見た場合、やはり差が出る。役割分担はあると思う。 市民と専門家の協働作業がないとこれからの事業は運営できない。 芸術監督の公募について、前例がないことはなく可能性はある。 市民が運営に参加することは必要だと思うが、オープンしてからの関わり方は、市民にオープンな組織でないとならないと思う。民間だと株式会社となるし、直営だと職員でやっていく。開かれた組織になって、自分たちの意見が言える組織が理想的ではないか。これからは開かれた運営組織であるべき。 劇場は自立した経営をしていかねばならないが、民間で言えば館長は社長に当たり、社長次第で状況が変わる。そういう意味で民間の形態を少し参考にしながら造っていくべきかと思う。 可児でやっていたのは会費をとらない友の会だった。理由はいかに多くの人に情報を届けるかが目的だった。800～5,000人の友の会の参加者がいたのは会費を取らなかったからだと思う。その代わり割引はないが先行予約、催しのお知らせは定期的を送っていた。しかし友の会はつくと定期的に収支決算をせねばならず、事務局をつくる必要があるので体制づくりが大変。なので、無責任な形で運営ができ、多くの人に情報を届けるという意味でやっていた。 黒部の場合は、裏方サポーターというボランティアがいた。地元スタッフに居なかったのでスタッフを近場で依頼できなかった。それならば自分たちが勉強しながらお手伝いしようと思えたもの。ただし、責任の問題を考えればこれは窮余の策で、本来の在り方ではないと思う。 北上の場合は、管理が財団、運営NPO。運営が市民サポートでやるということに関しても、予算交渉から作品の質や量も考え、どこまで市民に対して責任をもてる事業運営ができるのかと考えれば、これも窮余の策であり本来の在り方とは違うのではないかと、私自身は感じた。 市民サポーターの在り方は、基本的には楽しんで続けるという雰囲気をつくるのが考え方の中心になったほうがいいのでは。そうなると思えることができるのでは

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
運営システム	<ul style="list-style-type: none"> 市民会館やけやきの料金よりは上がると思う。そこを市民がどう考えて使っていくのかを念頭に入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学割を取り入れて欲しい。マロニエの音楽室が使われないのは利用料が高いから。利用者の裾野を広げて欲しい。 施設利用のルールは適切なものを、がちがちに縛らないで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。 スタッフとして活動していく人の制服や目印があると、それを身につけていることがステータスになっていけば無償でもやりたい人がいるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動ということに焦点を絞る必要がある。大人の遊び感覚であり構子定規にものを考えず楽しいことをやろう。 広義に小田原を告知するために、小田原全体のデザイン力を高め、幅広い広報を行うべき。 いかに効率よく運営するか。運営にはお金の問題がついてくる。それには稼働率を上げるのが一番手っ取り早い。運営に対する経済的な基盤と市民のニーズを取り込んだ企画の2つが運営の大きな問題だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ホールに求める要望は色々あると思うが、ヒントになることは、自分の人生の時代それぞれに関わることが市民ホールに求められることになってくると思う。3、4歳ならば遊べる部屋が欲しい。中高生ならば、話したり勉強したりできる広場。若者には発表したり練習できる場所。子どもができれば子どものための施設。中高年になればゆったりと散歩しながら話せる場所やカフェなど、時代ごとに求めることが変わってくる。そういう立場で意見を出してもらえれば、市民が目的なく遊びに来られるホールになるのではないかな。 稼働率は平均、高くして大ホールで7割、低ければ3割以下。大ホールは年間の半分が空いているというのが全国の平均。だからといって大きなホールがいないわけではないが、どの様に稼働率をあげていくのかは運営者の課題だと思っている。
防災	<ul style="list-style-type: none"> 防災について、津波対応をどうするか。今の状態ではマンションの屋上か小田原城に行くしかない。例えばホールの屋上にある程度逃げられるようにするなど、対策を考えていければいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 建築するとき震度いくつという想定を。ここに来ると言われている震度よりも高くして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災について、最低3階の高さ。何かあったときに対応できる場所が必要かと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災、エネルギー的に独立するために太陽光パネルを。エネルギー的に自立できる避難場所に変更できるように。 	<ul style="list-style-type: none"> 大震災時の役割分担は行政と市民が協働したが、やはり自治会の方々の力がないと早く復興に結びつきはしなかった。市民と専門家の協働作業がないとこれからの事業は運営できない。 防災の拠点について、緊急の避難場所にはなるが、長期的な避難場所にはなりえないのではないかな。ホールというものは安全な場所が少なく、客席舞台を含めかなり危険な設備がある。小さな部屋は沢山あるが、部屋ごとに状況が違うので一体感が無くなっていく。一体感の無い場所で避難生活を送っていると、自治会の連携が取りにくい。ひとつの問題提起だが、緊急の避難場所にはなり得るが、持続的な避難場所にはならないのではないかなと思っている。 だが、その後の文化施設は被災後に欠かせない物をもっているのだから、早く復旧してその後の避難生活者に文化ホールの役割を發揮していければいいかなと思っている。
景観		<ul style="list-style-type: none"> WSでアートを制作し建物の一部に取り入れた。具体的には寄木細工などという案があった。小田原の市民が参加した証しとして残したい。 	<ul style="list-style-type: none"> お城や緑という小田原のいいものがあるので、隣接しているという強みを生かしたものに出来ないかな。 お城にあった小田原らしいものに。いろんな人を引き入れる、なごませる、まちづくりと併せながら、盛り上がりのあるホールを取り囲む景観をみつめて欲しい。 		
その他			<ul style="list-style-type: none"> 商店街と自治会にもう少し関心をもってもらえないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの検討意見から、皆さんの意見は出尽くしたように思う。それよりもホール建設後にこの意見が持続し、意向を汲んでくれるかということと思う。それには市民の努力も必要。 皆さんにそれぞれの思いがあり、自らの技術や知識を市のために捧げたいという方々だと思う。この委員会が終わった後も解散するのではなく、各々が特化しているものを行政に渡せることがあれば嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の人たちが参加という意見があったが、それを逆手にとり、新しい市民ホールは大きな役割を持っている地域の劇場という意味をしっかりと肝に銘じて、運営していくべき。そのことが商店街、自治会の面々を動かしていく。そこから仲間にも引き入れても遅くないのではないかな。

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
設計・建設	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境配慮建築」という言葉をいれ、そういう設計をして欲しい。そのために市民がコンペに参加できるようにして欲しい。第一段階はスケッチ画で参加でき、第二段階からはプロという方法もあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算とスペースに限りがあるので、建物の物理的なサイズが何m×何m×何mのものができるのかという話になる。これからは何をカットしていくかという話も出てくるだろう。 ・デザイン的な話も色々出てくる。立方体としてのサイズにも関わってくる。 ・今後設計に入るときにコンペをやるのではないかなと思う。今まで色々議論を行ってきて、どういものが最終的に形になるのかについて一番気になっていると思う。決定する段階で、市民が参加できないだろうか。前回のコンペ案、とくに外観に対して市民からの意見が多く出た。しかし、外観というのは個々の好みであり善し悪しはない。例えば市民の声をある程度考慮して審査員が意見を聞いてくれば、最後まで市民が参加したことになるし、不平不満も少なくなるのではないかな。 ・設計段階でも市民の声が反映できないか。どうい設計がしてあるか市民がチェックできないか。 ・極力地元業者に入ってもらい、内装や基礎部分などは小田原の業者にお金を落として欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の問題、最大限に活かす方法を見つけて欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コンペでどういう議論をして設計事務所を選んだか、市民が分かるようにするのは、最低限必要なこと。 ・可児で2年くらい市民とともに劇場を造ったが、それにはとても長い時間とお金がかかるということ、市民の皆さんの強いエネルギーがないとできない。設計事務所にアイデアを実現してもらうには時間がかかるし、皆さんのエネルギーがないとできない。それが許されるかが大きな課題としてある。 ・上田市、長野市の劇場コンペの審査員を行ったが、行政としては市民参加でと言い、市民もそう思っていたが、結局時間が無く基本設計を作った段階で発表・見直しをし、基本設計を作り直す程度のことしかできなかった。現状ではそういうことも起きているので、時間が無い場合はいかに自分たちの思いを言い、いかに審査員とデザイン会社の実現に向けていくかという情熱にかかっている。大きな問題だと思うが、ある程度専門家に委ねるのがいいのでは無いかなと思っている。